



電腦博士Mr.HIROSEの

ITこぼれ話

第1回目

「ITって何？」

ITプランナー 廣瀬隆夫

「ITの壁」がある・・・

親指一本で猛烈なスピードで携帯電話に文章を打ちこんでいる中学生や高校生の姿を、電車の中で見ていると、彼らとの間には大きな壁があると感じます。今の中高生は、生まれた時にパソコンやゲームがあって、それに接しながら育っているのです。彼らがITという言葉の意味を、どのくらい理解しているかは分かりませんが、キーボードやゲームパッドを平気で道具として使いこなしているのです。このコラムでは、私も含めた、壁のこちらの人々、すなわち、ITについて頭で理解しないと満足できない人たちのために、出来るだけわかりやすくITについてお話をしていこうと考えています。このコラムを読んで、皆様が「ITってそういうものだったんだ」と少しでも納得していただけたら幸いです。

「IT革命」って何?・・・

ITというと「IT革命」を思い出す人が多いでしょう。ご存知のように、「IT革命」は、今から5年ほど前に森政権の売り物として登場しました。光ファイバーを全国に張り巡らせるとか、携帯情報端末を普及させるとか、次世代の移動体通信の普及だとかいう話ばかりが先行して、何が便利になるのか、何をやりたいのかちと

も本質が分からなかったのではないのでしょうか。その理由は、本来は手段であるはずの「IT」を目的と勘違いしていたという点にあると思います。パソコンを勉強しなさい、ネットワークを使いなさい、と言ってもそれで何をやるのかが明確になっていなかったのです。日本では本当の革命が起らないまま「IT革命」は忘れ去られ、小泉政権の「e-JAPAN戦略」にバトンタッチされました。

実は、このIT革命が出てくる何年も前に、米国では本当の情報革命が起っていたのです。1993年にクリントン大統領の下でゴア副大統領が、全米の公共機関、研究所、企業を結ぶ光ファイバー網をめぐる情報のスーパーハイウェイをつくるという壮大な構想を発表しました。ちょうど、時を同じくして、ネットスケープコミュニケーションという会社が、最初の商用WebブラウザであるNetscape Navigatorを発表し、数年後には、Windows95が爆発的に普及しました。今まで、パソコンやインターネットとは無縁だった人たちが堰を切ったようにITの世界に流れ込みました。光ファイバーという道路、その上を走るパソコン、それに積み込むアプリケーションが三位一体になって革命が起り、景気回復に貢献しました。

e-JAPAN
戦略

高速光ファイバー網



図1 IT革命とは何か

さて、この両者の違いは何だったのでしょうか。環境論者でもあるゴア副大統領が提唱した情報スーパーハイウェイ構想には、2つの明確な目的がありました。経済の効率化と環境問題の解決です。通信網を発達させて人や物がエネルギーを使って移動しなくても電子的に取引ができる環境をつくるというのがITの目的だったのです。銀行に車で行かなくても、自宅から振り込みが出来れば、それだけでも



ガソリンの節約になりますし、大気汚染の解消に役立ちます。「IT革命」で新しい雇用が創出される、なんていうのは、ちょっとピントが外れているのです。退屈な事は出来るだけITにまかせて自分たちの生活を楽しむもの、便利なものにしていこうというのがIT導入の本質なんです。パソコンを入れたら仕事が増えたということが最悪の「IT革命」です。(p.13 図1参照)

🌐 パソコンは難しい?.....

最近のパソコンは、本当に難しくなっています。使わないソフトが沢山ついてきますし、ワープロソフトなどもバージョンが上がるたびに操作が複雑になる一方です。これを使いこなすのは大変なことです。でも、パソコンが分からないからって、悲観することはありません。それは、あなたの責任ではないからです。高いお金を出して買った洗濯機が難しくって使えないから、更にお金を払って勉強しなければならない、ということになったら、おかしいと思いませんか。新品の電話で通話をしていて突然途切れたとしたらとしたら、あなたはどうしますか。多分、欠陥商品として量販店に駆け込むでしょう。しかし、パソコンの場合は、使えないのは使用者の責任で、ワープロを打っている途中に画面が固まってもメーカーに文句が言えないのです。バックアップを取っていなかったのはあなたが悪いからで、動かなくなったら泣く泣くリスタートボタンを押して、もう一度打ちなおしをするしかないんです。

このように、パソコンの世界はおかしなことばかりです。冷蔵庫や洗濯機などの家電製品と違うのは、パソコンにはソフトという心の部分と、それを入れるハードウェアがあり、ソフトは聖域として触れることができないと思われていたからです。「IT革命」もこの畏にはめられた感があります。この二言論はデカルト以来の西洋思想の中核を成すものですが、我々東洋人にとっては、心と体は渾然一体のもので、理解しがたいものがあります。最近の情報家電と言われているプラズマテレビや携帯電話の構成要素はパソコンと全く変わりはないのです。パソコンは、いつからこんなに不遜な物になってしまったのでしょうか。

Macintoshの生みの親であるスティーブ・ジョブズは「パソコンは知的自転車」だと言っています。人間は他の

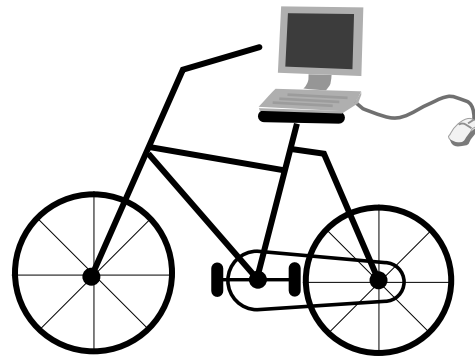


図2 パソコンは知的自転車

動物に比べて著しく歩行能力が低い、自転車という単純な道具の発明で、その能力を飛躍的に高めた。コンピュータという道具も、人間の知的生産効率を同じように高めるためのものだ、と言っているのです。パソコンは人が使う道具だということを忘れてはいけないと思います。道具としてのパソコンは難しすぎます。まだまだ改善の余地はありそうです。(図2参照)

🌐 10年後はどうなっているの?.....

さて、IT業界はドッグイヤーと言われているようにものすごいスピードで進歩しています。Intelのムーアの法則によると10年でコンピュータの処理速度は100倍になると言われています。UNIXの立役者、ビル・ジョイは通信速度はもっと速くて10年で1000倍になるといいます。実際に10年前のモデムの速度は14.4Kbps、今のADSLモデムは24Mbpsですから、本当に1000倍以上スピードアップです。今後もこの割合で性能が上がっていくと、10年後の2015年には全ての家庭に光ファイバーがひかれ、高速な無線通信が発達するとともにコンパクトで100倍以上も高性能なパソコンがオフィスや家庭に普及しているという予想は容易に出来ます。最近、ユビキタスネットワーク社会という言葉が語られ始めましたが、アドレスを持ったICタグのような小さなコンピュータがどこにでも埋め込まれ、それが高速なネットワークで結ばれるという世界も決して夢物語ではなくて来ました。(図3参照)

報知新聞が1901年に100年後の生活がどうなっているかを予測した「20世紀の予言」という特集記事があります。ホームページで公開されていますので興味のある方は、ご覧になって下さい。その中でITについてかなり当たってい

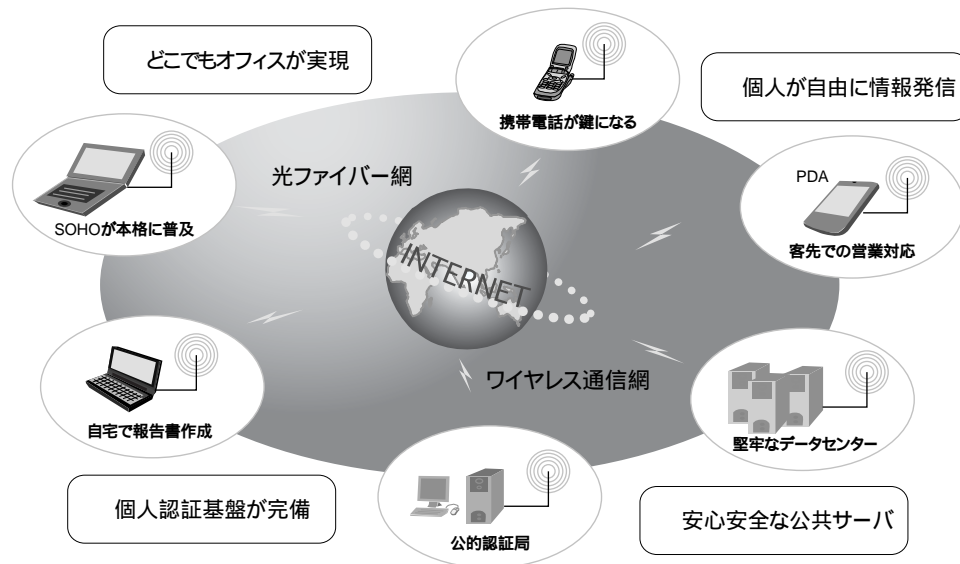


図3 ユビキタスネットワーク環境

るものがあります。以下はホームページからの抜粋です。

【無線電信及電話】マルコニー氏発明の無線電信は一層進歩して、只だに電信のみならず無線電話は世界諸國に聯絡して、東京に在るものが倫敦紐育（パリ、ニューヨーク）にある友人と自由に對話することを得べし

【遠距離の寫眞】數十年の後、歐洲の天に戰雲暗澹たることあらん時、東京の新聞記者は編輯局にみながら電氣力によりて其状況を早取寫眞となすことを得べく、而して其寫眞は天然色を現象すべし

【寫眞電話】電話口には對話者の肖像現出するの装置あるべし

何と100年も前に、携帯電話、カラーファックス、テレビ電話の出現を予言していたというのは驚きです。

そこで、私も10年後のITをとりまく環境はどうなっているか予言してみることにしました。私の願望でもあるのですが・・・

1 インターネット上の言葉の壁がなくなる

自動翻訳の技術が発達して、色々な言語で書かれた世界中のホームページが自国語で読めるようになる。電子メールにも、この機能が組みこまれ、世界中の人たちと自由に意志の疎通が出来るようになる。

2 携帯電話が鍵になる

胸のポケットに入る名刺大の携帯電話が出来て、それが鍵の代わりになる。指紋や声紋による本人確認の機能を備

えており、自宅の玄関でかざすとドアを開けることができる。車の鍵にもなり、インターネットで買い物をするときのパスワードの代わりにもなる。

3 パッケージソフトがなくなる

高速なネットワークが整備されると、ソフトを買いに行く必要がなくなる。使いたいときだけダウンロードして使った分だけ料金を支払うようになる。セキュリティ対策も、ハードディスクがクラッシュするという心配もいなくなる。

4 手軽に海外旅行が楽しめるようになる

海外でパスポートを無くしても、指紋や顔、声、筆跡などが、高速なネットワークで瞬時に日本の外務省に送られ本人確認が行える。現金を何も持たなくても航空運賃は口座から自動的にひき落とされる。ICタグの付いた旅行鞆は、泊まりたいホテルに自動的に届くようになる。

5 五感対応パソコンが売りだされる

マルチメディアパソコンが進化した、五感対応パソコンが出てくる。触ってみたときの質感、臭い、味覚といった情報が扱えるようになる。自宅でデパートのバーゲン売り場に行ったときのような臨場感を味わいながらショッピングを楽しむようになる。

この続きは、ITを使えば自分たちの生活をどのようにしたら便利にできるかを皆さんが考えてみて下さい。

次回から、もう少し具体的な「ITって何?」についてお話を進めさせていただきます。